第十五号
びっくり！エコ新聞
小学校のみんなは、かぞくといっしょにみてね

びっくり！エコ実行委員会
MAIL：mezase530@gmail.com

生物多様性

生物多様性とは何か？

みなさんは、「生物多様性」という言葉を聞くと、何を思い浮かべますか？

手つかずの自然？たくさんのいきもの？

なんとなくいきものがいっぱいいるような風景を思い浮かべるかもしれませんが、はっきりと説明するのは実は難しかったりしますよね。実は、生物多様性というものを考えるときは、次の3つの点に分けると、考えやすくなります！

①たくさんの種類のいきものがいること（種の多様性）

②複数のいきものたちが関係して成り立つ環境がたくさんあること（生態系の多様性）

③同じ種類のいきものであってもそれぞれ違っていること（遺伝子の多様性）

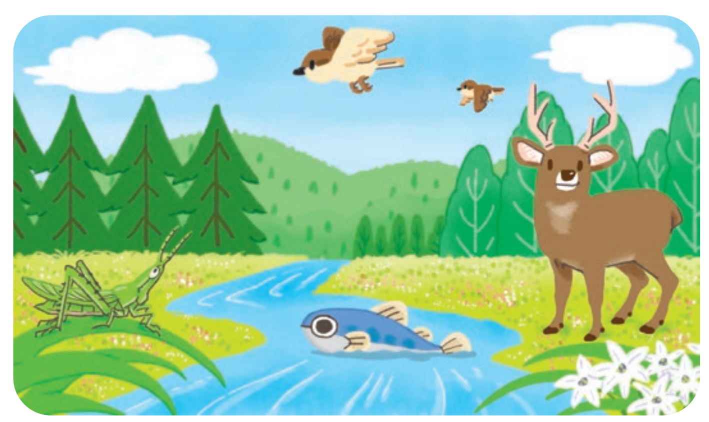
おそらく、多くの人が生物多様性という言葉を聞いて思い浮かべるのは①の種の多様性なのではないでしょうか。

特に③については、生物学の研究をしているような人でないと、なかなか意識できない点かもしれませんが、誰しもが想像できる例を挙げるとすれば、ヒトです。この記事を書いている私も、読んでくださっているみなさんもみんな同じくヒトですが、"見た目も性格も全く同じようなヒト"ではないですよね？それぞれのもつ遺伝子というものが少しずつ違っているから、個性が生まれているのです。

これは他のいきものにとっても非常に大事なのです。もしすべての個体が全く同じ性質をもっていると、例えばその個体に脅威的な病気が流行ったり、環境の変異が起こったりしたときに、たちまち全滅してしまう可能性が出てきます。しかし、色んな性質の個体がいることで、そのような病気や環境変化に強い個体は生き残ることができ、全滅せずに次世代が残るようになるのです。

①～③は、それぞれは全く異なるレベルの話ですが、どれか1つでもかけてしまうと同時に他の2つも崩れてきてしまうような、密接に関わりあっているものなのです。

①たくさんの種類のいきものがいること（種の多様性）



②複数のいきものたちが関係して成り立つ環境がたくさんあること（生態系の多様性）

③同じ種類のいきものであってもそれぞれ違っていること（遺伝子の多様性）

近年の生物多様性

日本だけではなく海外でもそうですが、外来種などの問題に注目が集まるようになってきました。

日本では外来種と言えば、これまでブラックバスやウシガエルなどが典型的なものでしたが、最近ではミシシッピアカミミガメとアメリカザリガニが特定外来生物に指定されて話題となりました。他にもアライグマやノネコなど、外来生物問題は尽きることがありません。

同じ国の中で遠方の地域に生息するいきものを放つような行動（ホタルやアユの放流など）も、問題視される動きが増えてきたように感じます。

反対に、新種として記載されるいきものも毎年誕生しています。すでに希少になっている種を守るだけではなく、これ以上"希少な種"が増えてしまわないように、一人一人何ができるか（ゴミ拾いをする・ペットを捨てない……など）考えてみると良いのではないでしょうか。

京北でのいきもの観察プログラムの紹介
いきもの観察会
京北地域を流れる川や、森の中に入っていきものを見つけてみませんか？

観察会では、フィールドでいきものを捕まえたあと、少しの間だけ透明の虫かごに入れてじっくり観察を行ったのち、元の場所へ帰します。

フィールド（外の自然）でいきものを探すことに詳しい研究者と一緒に、楽しく安全にいきものを見つけてみましょう。いきものの見つけ方、触り方、見分け方もコツをつかめば誰でも挑戦できることがたくさんあります。楽しいのはもちろん、研究者がいるからこそ、いきものたちを通していろいろなことを学ぶことができます。

それまでは"見えなかった"いきものたちが、次からは自分の力で"見える"ようになるかも！？

※令和4年度のいきもの観察イベントについては、令和4年度環境省生物多様性保全推進支援事業により実施されました。

2023年度の実施予定
6月・8月・10月・3月（2024年）の、めぐる市での実施を予定しておりますが、天候などによって日程が変わることがあります。参加を検討される方は、いきもの倶楽部KONOMIのメールマガジンへご登録ください（無料です）！
https://forms.gle/FrFdmZRm5TyYWti56

京北でのいきもの注目ポイント

京北には、護岸工事のされていないような自然の川も多く、また森や田んぼがたくさんあることから、市街地ではなかなか見ることのできないいきものがたくさん生息しています。

自然と人間生活の関わりを見ることができるのも、里山である京北ならではの特徴です。

京北にはいないといういきものもたくさんいますが、まずは京北にいるいきものたちを知ることで、身近な自然に生息する日本のいきものたちを広くたくさんのことを知ることができるのではないでしょうか。

TwitterやInstagramでの情報発信も行っておりますので、イベントに参加してみたい方、いきものに興味がある方はチェックしてみてください！
Instagram Twitter メルマガ

KEIHOKU

地域とつながるSDGs学習の事例レポート

小学校×商店街×駅前ビル×地域×大学＝持続可能な未来?!

京都市山科区において、持続可能なまちづくりを目指して、京都市立安朱小学校（以下安朱小）と地域関係者（山科商店会、京都シティ開発（株）、ラクト山科入居事業者）、京都大学浅利美鈴研究室、京都超SDGsコンソーシアムらが連携し、地域の方々の協力も得て「山科SDGsパートナープロジェクト」を展開しています。

対象児童は安朱小5年生2クラス合計38名であり、2022年9月～12月にかけて、約19回の授業を実施しました。教室でのSDGs学習だけでなく、3回の授業は地域の事業者（合計13店舗）と対話し、地域の方々と一緒に山科地域の持続可能性について考えました。

この取組が、地域の方々や児童たちにもたらす変化などについて把握することにより、今後の改善につなげたり、1つのモデルとして他の地域へ発信したりすることも考えています。

具体的には、児童がまずSDGsや山科地域について学び、地域の事業者と対話した後に、持続可能なまちづくりのための提案を行いました。ポスター等による発表を地域で展開することで、児童と地域の人をつなげるような場も提供されました。

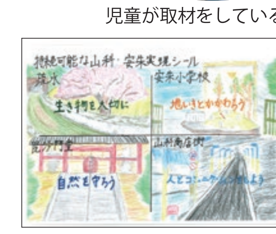
なお、本プロジェクト連携主体である京都大学浅利研究室、地域の事業者（京都シティ開発（株）、山科商店会）、安朱小は、それぞれ、京都超SDGsコンソーシアムが運用する「京都SDGsパートナー制度」に登録されています。山科商店会は商店街として初、安朱小は小学校として初、浅利研究室は大学として初の登録となっています。

児童が『SDGsノート』を使って、大学生と意見交換

授業の様子

児童が取材をしている様子

児童が協力事業者にインタビューしている様子



児童が作成したポスターを地域で展示

児童が発表する様子

京都SDGsパートナー制度について

1 京都SDGsパートナー制度とは？

地域活動や文化活動なども含めてSDGs達成につながる、多様な取組やチャレンジを「見える化」でき、多様な事業者・団体が参加できるのが特徴です。SDGsやCO_2ゼロの達成には、より多くの方がパートナーシップで取り組むことが重要です。取組の深化や活動の連携を進めるきっかけとして登録をしてみませんか。

京都SDGsパートナー制度
市内拠点の有無や規模を問わず、企業やNPO法人といった各種団体等も幅広く対象とし、SDGs、CO_2ゼロに取り組む意思を宣言・実践する事業者等を公表する制度
（実施主体：京都超SDGsコンソーシアム）

京銀SDGs宣言サポート
お客様との対話を通じてSDGsの取組状況を整理し、今後の取組を提案するとともに、オリジナル宣言書の策定支援や当行プレスリリースによるPR支援を行う制度（実施主体：京都銀行）

京都中信SDGs宣言サポート
SDGsの取組状況と課題について診断ツールを用いて見える化し、診断レポートに基づいた取組提案や宣言書の策定に向けたサポートを行う制度
（実施主体：京都中央信用金庫）

京都市 輝く地域企業表彰
地域と共に継承・発展する「地域企業」として、安心安全や文化の継承への貢献など、地域に根差して企業活動に取り組まれている事業者を表彰する制度
（実施主体：京都市）

ソーシャル企業認証制度 S認証
社会課題の解決、SDGsの達成に向けた取組やESG経営を実践している企業に対し、京都信用金庫等がサポートを行い経営方針や事業内容、社会的インパクトなどを整理し、第三者委員会が評価・認証を行う制度
（実施主体：ソーシャル企業認証機構 等）

これからの1000年を紡ぐ企業認定
社会的課題の解決など、持続可能な社会の構築に貢献する企業を認定し、これらの企業の成長と発展を支援する制度
（実施主体：京都高度技術研究所）

※このパートナー制度は、SDGsを推進するため、行政・金融機関・関係団体が実施主体となる他の5つの制度とともに、「きょうとSGDsネットワーク」を構成しています。

2 制度の対象は？

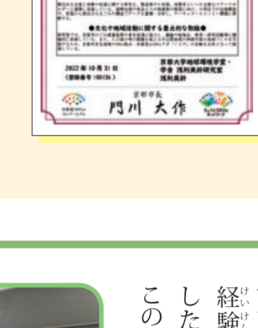
企業だけでなく、団体（NPO、学校、商店街等）、個人事業主など、京都市内の拠点の有無や、団体規模は問いません。（安朱小学校、山科商店会、京都大学地球環境学堂・学舎 浅利美鈴研究室などが登録されています。）

3 登録の仕方は？

まずは、WEB（SDGs KYOTO TIMES内の申請ページ）にアクセスし、「チェックリスト」を入力しながら、これまでどんな取組をしているのか、今後どんな取組を行うべきかを確認します。

作成したチェックリストや経営理念等から、①「SDGs達成に向けた目指す姿と運営・事業方針」②「SDGsに関する重点的な取組」③「文化や地域活動に関する重点的な取組」を考え、電子申請をすれば、事務局の確認後に登録証（電子）が発行されます。

1 最初に、WEBサイトにアクセスし、申請マニュアルで登録要件など詳細を確認
2 実施している／これから実施する取組を記入例を参考に「チェックリスト」に記入
3 WEBサイト内の申請フォームから申請。チェックリストはメールで送信
4 事務局において申請内容を確認
5 登録証の発行（電子データを送信）。「京都市情報館」ホームページ等で公表



4 色々なSDGsの取組を見てみよう

京都市のHPである京都市情報館でパートナーの登録証を公開しています。「京都市情報館 京都SDGsパートナー制度」で検索して、パートナーの取組を見てみよう。

集まれ未来のリーダーズ！
京都大学SDGsリーダー育成プログラム

京都大学地球環境学堂は全国の中高生を対象に「京都大学SDGsリーダー育成プログラム（SPARKU）」を実施しています。SPARKUは地域のリーダーになる人材を育成することを目指しており、2020年からプログラムを開始しています。

第3期の開講となった本年度は、北は茨城県から南は長崎県まで幅広い地域から計44名の中高生たちが参加しました。京都市からも北桑田高校、西京高校、洛南高校、同志社高校、同志社女子高校、大枝中学校、同志社中学校から参加がありました。Zoomを用いたオンラインゼミをベースに、京北合宿や京都市南部クリーンセンター見学といった実地研修を交えた教育プログラムを提供し、約1年間かけてSDGsや持続可能な社会の実現に向けた学習・議論を行いました。

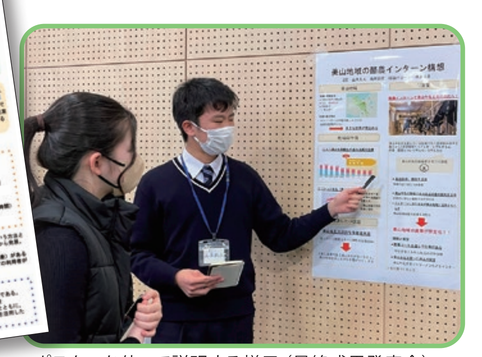
プログラムの前半では「地方創生」を中心にオンラインゼミを展開しました。初めて耳にする内容が多く、難しかったと思われますが、講師の先生との対話を通じて理解を深めていました。プログラムの後半では、少人数のグループによるグループワークを約4カ月かけて実施しました。「特定の地域の課題解決策を提案する」という課題で、対象地域の選定・問題分析・解決策の検討をすべて中高生が主体となって実施する非常に難易度の高いワークでしたが、プログラムを通じて得た知識や経験を動員して取り組んでいました。2023年3月11日には、このワークの発表会として京都大学吉田キャンパスにて最終成果発表会を開催しました。少子高齢化や地場産業の衰退に対して各班から様々なアプローチの提案があり、90分が一瞬に感じられるほど大変盛り上がる発表会となりました。

参加した中高生からは、「物事を多面的に考える力が身に付いた」「プログラムを通じて物事をまとめる役割を担えるようになった」といった声が寄せられ、中高生たちの成長を感じ取ることが出来ました。また、「自分の地域しか考えたことがなかったが日本全体の視野を持てるようになった」「意見交換をする中で自分が知らない現状や課題を抱える地域があることを知った」など、全国から参加者が集まったことによるメリットも分かりました。

最後になりましたが、SPARKUに参加していただいた皆様、関係者の方々に深くお礼申し上げます。また、本事業の一部は日本生命財団環境問題研究助成の支援を受けて実施したものです。ありがとうございました。

文責：上田知弥（エコ～るど京大M2）

北山杉を使ったはし作り（京北合宿）



ポスターを使って説明する様子（最終成果発表会）